

今場所の優勝争いは千秋楽の結びの一番までわからないという盛り上がりを見せた。その功労者は優勝経験のある白閃光、鹿富士、鬼ヶ嶽で、彼らの活躍があったからに他ならない。特に白閃光はかつての勢いを取り戻しつつある相撲と並び、前頭二枚目で8勝をあげた大神楽とともに「大関返り咲きを目指す！」と磯ノ海が断言した。来場所はこの2人は三役に返り咲くことと思われ、千代鈴を含めた3力士の大関争いがこれからの注目の一つになると思われる。

また、負け越しした春ノ翔、途中休場した美空富士の再起も期待され、連覇を目指す若ノ嶋、横綱獲りの佐賀ノ海と来場所の優勝争いも盛り上がることに間違いなく、楽しみは目白押しの様相だ。次場所は緊急事態宣言が解除された後の9月開幕予定である。(錦風)

春日根の秘蔵子 西神門

十両は春日根部屋の西神門が終盤の混戦を抜け出し新十両で堂々の優勝を果たした。

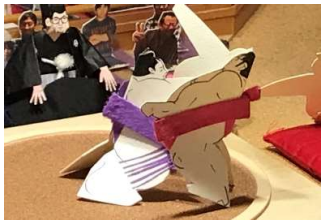
十日目、鳥海波、琴乃王と2敗で並ぶ西神門は3敗の葵盛と対戦

ともに新十両を果たした鳥海波が負け越しとなったため、親方の西神門に対する期待は一層高まる。先に2敗を守れば他の2人にプレッシャーをかけることが出来るが、葵盛も3敗を守れば優勝のチャンスは残ってくる。しかしここは西神門が葵盛を寄せ付けず押し倒した。

そして2敗同士で鳥海波と琴乃王の直接対決。琴乃王自らの連敗で盛り上がる展開をつくっては勝った主役の座を奪い返したいところ。鳥海波との一番はガツガツ引きつり



琴乃王〇(寄り切り) ●鳥海波



西神門〇(押し倒し) ●葵盛

た琴乃王が寄り切りで2敗を守り決戦の千秋楽を迎える。

2敗の両者が敗れることになると最大4人の決定戦もある中、まずは西神門と鳥海波が土俵に上がった。西神門は勝ちたいとこころ。こまめで何とか勝ち残ってきた感の鳥海波であるが、勝てば一場所での幕内復帰も見えてくることあって打倒西神門に気合が入る。しかしその気合も通配が上がった。

この時点で3敗勢の優勝がなくなり琴乃王と麒麟王の一番を迎えた。勝って決定戦に持ち込むしかなくなった琴乃王は、ほぼ来場所の新入幕を決めている麒麟王との対戦。期待された一番だったがともにもまわしを引けず引き落として麒麟王が勝ったこと西神門の優勝が決まった。密を避けるため春日根親方は二階でのモニター観戦となったが、感染対策から喜びを押し殺しての優勝の喚起に浸っていたようだ。来場所の活躍も楽しみなどこ



麒麟王〇(引き落し) ●琴乃王



鳥海波●(寄り切り) ○西神門

筆頭の山辺は十日目に寶蔵を押し倒して6勝目を上げて新入幕を決めた。これにより来場所の四股名の改名も決まり親方がある。これと熟慮の最中である。他に昇進を決めたのはこちらの鳥海波の3人となる。一方で、天我がとうと片目も開くこととなった。11連敗で七枚目からの陥落となってしまう。他に桃山部屋唯一の関取桃ノ洲、元幕内の三鷹のベテラン勢も幕下からの再起を図ることになる。

場所前優勝争いを演じるであろうと思われる。暫くは八日目からの3連敗がひびいて7勝止まり。来場所こそは優勝争いに絡む活躍が期待される。十両2場所の夢香山は千秋楽に残留をかけて虎ノ國と対戦し寄り切り切れに陥落となってしまった。だが、その代わりと言っているんだが、三国と花形が新十両の座を射止め入れ替わる形となる。来場所も最後まで盛り上がる展開に期待したい。(勝間田)

幕下も春日根、西の富士

幕下は4連勝同士の決戦となり、西の富士が押し倒して蛮国を破って初優勝を飾った。



西富士〇(押し倒し) ●蛮国

優勝を懸けた一番は四日目の決まり手。の全てを押し倒しで決めている西の富士がまたも蛮国に対し左を差すしないで見留め最後は押し倒しに仕留めた。東二枚目での全勝優勝ということもあり、来場所は十両でかなり番付を上げることになるだろう。また優勝こそ逃した蛮国も新幕下の場所で大健闘を見せ、来場所も上位で今回のような活躍を見せれば関取の可能性も見えてくるというものだ。

来場所の十両昇進力士は西の富士の他に虎影、三国、吳翔龍、花形、勝ノ川の5人となる見込み。またも楽しみな若手が一挙に上がって来ることになる。その中で桐壺部屋から虎影と吳翔龍、香具山部屋からは三国と花形の2人が昇進。虎影は春ノ虎から改名したのが功を奏したのか、幕下在位18場所とかなり苦労を強いられた。体格が同型の吳翔龍とともにバランスの良さを生かし十両でも楽しみな存在となりそう。

勝った方が十両昇進となる一番で三国が英風を下し幕下を2場所での超スピード出世。序の口から未だ負け越し知らず夢香山に代わって香具山親方の三国にかける期待は更に大きくなるだろう。

花形も三国には及ばないがこちらも所要4場所での通過を決めた。新幕下で蛮国の他に目を引いたのは境界最小兵の藤丸。連日相手の懐に食いつく相撲で白石を重ね4勝を上げた。来場所も面白く存在になるだろう。桐壺の富士トリアは播磨富士だけが勝ち越しを決め明暗を分けた。(勝間田)

三段目、序の口

三段目の千秋楽は四日目を全勝とした桐壺部屋と磯ノ海部屋との龍神丸との一騎打ちとなった。強豪部屋で小立合の対戦に躍動感のある取り口となり、立ち合いから激しい差し手争いを見せながらも一歩も引かない右の押し付け合いの攻防から、土俵中央で体勢を立て直して一瞬の隙をついてのど輪を差し込んだ龍神丸が西土俵に押し倒して優勝を飾った。龍神丸は先場所の序の口のデビューから番付連長く二場所での育成会突破となり、最近の部屋に乗り込んで更なる活躍に期待がかかる。

序二段は全勝力士が櫻塚ただ一人となり、千秋楽に勝つはずなり優勝が決まったのだが、一敗の富士の海との対戦に引き落としに敗れ、一敗で並んだ富士の海、自力岳、逆起、磐若、櫻塚の五人による決定戦に。一回戦先ずは同部屋対戦となった磐若が逆起を破り逆起が敗退。続く二回戦磐若を下した自力岳が勝ち残り決勝戦に駒を進める。三回戦は富士の海と櫻塚との本割りと同じ対戦となり櫻塚がそのリベンジを果たし決勝戦へ。櫻塚と自力岳との決勝戦は最終詰め続けた櫻塚が粘る自力岳を寄り切りに下し優勝を決めた。

序の口は4連勝を決めた友砂部屋の富岳と勝間田部屋の紅ノ花との、二力士による千秋楽決戦となった。序の口とはいえどちらも古豪部屋の力士とあって、熱戦による決戦に注目された。互角の立ち合いから紅ノ花の右の押し付けをかわした富岳が胸を合わせるとすぐ様左を差して向正面に力強く寄り切りを下し優勝を決めた。四股名からも伺える期待に応える結果となり友砂親方を大いに喜ばせた。またその風貌から「小蛮勇」との愛称で人気を博し、初代富嶽の様に育成会での活躍に注目が集まる。(香具山)